

今年度発刊の文芸誌「三潮」第47号の紹介記事がデーリー東北
(2024年1月13日付)に掲載されました。



青森文芸の魅力詰まった一冊

教職員らによる「三潮」

市民記者

教職員や退職教職員による文芸誌で、毎年12月に発行される「三潮」は掲載作品が多種多彩

である。「小説」「文芸評論・書評」「児童文学」「紀行・ルポルタージュ」「自伝・評伝」「随想」「詩」「短歌」「俳句」「川柳」「テーマ投稿」「県内高校生の高文連入賞作品」など、

47号、文筆家能町さんが特別寄稿

並々ならぬ熱意をもって寄稿された作品群である。実務的な仕事をしてくれた青森県教育厚生会事務局の方々に、改めて感謝の意を表したい。

これまで、県出身の文学者や著名な方々から多くの寄稿をしていただいた。今号は、2021年から青森市内に定期的にお住まいの文筆家、能町みね子さんが「人口120万人の青森市にて」という特別寄稿を書いてくれた。

素晴らしい着想で詳細に調べ上げ、架空の鉄道網をつくった。JR線のみならず、市電や市営地下鉄まで完成させ、さらに私鉄路線図やトラム路線図を緻密に作り上げた熱意と努力に感服するばかりである。実際にこのような交通網があれば、観光客の利便性向上だけでなく、高齢者層の通院の負担が減るだろうと切実に思う。

表紙やグラビア、カットも県内の四季折々の自然の魅力があふれる構成になっている。

文芸誌「三潮」は、国立国会図書館をはじめとして、県内の官公庁や学校、諸団体に贈呈しているのをご一読していただきたい。頒価は千円。

問い合わせは、県教育厚生会総務課 電話017(721)1310へ。(宮内香玉)

市民記者便り

〇：かねて、文芸誌「三潮」の編集委員をさせていただいています。年々、全国的に教職員や退職教職員が作る文芸誌は希少となり、作品の確かな重み、時を慈しみ、味わう感性の豊かさに心を打たれるばかりです。退職された先輩諸氏の、教育へのご尽力と文芸の力に驚嘆します。たくさんの方に読んでいただき、青森の文芸の魅力を共有してほしいと思います。(宮内)

デーリー東北新聞社提供

※この画像(記事)は当該ページに限ってデーリー東北新聞社が使用を許諾したものです。